

# 水稲など技術47件追加 農水省

[みどりGX] 環境負荷減、省力化へ「カタログ」

農水省は、「みどりの食料システム戦略」の実現につながる技術をまとめたカタログに、普及可能な技術など47件を追加し、公表しました。高温による水稲の刈り遅れや果実の日焼けを防ぐ対策、病害の早期発見につながる検査キットなどを加えました。

カタログは第5版で、みどり戦略に掲げる化学肥料・農薬の削減、省力化などに役立つ栽培技術や機械などを紹介します。既に普及可能なものや2030年までに普及を見込むもの

などが対象。今回の追加で、掲載する技術は計452件となりました。

水稲では、「コシヒカリ」などの穂を撮影すると自動的に収穫作業開始の目安が分かるウェブアプリを紹介。高温化での刈り遅れ防止につながる技術です。各社の自動水管理システムの導入効果や価格などをまとめた他、高温障害に効果があるとされるケイ酸資材の施用効果なども紹介しています。

果樹では、かんきつ園地で使

う軽トラック用のアタッチメント式防除機を掲載。手で散布する場合と比べて農薬散布量を2割、作業時間を8割削減できます。その他、粘着テープを使い日焼け果の発生を半分以下に軽減する技術なども紹介しています。

施設園芸では、専門的な機器を使わず、ウリ類退緑黄化ウイルスの検出が30分でできる簡易な検査キットを掲載。早期に診断が必要なものの、生理障害との見分けが難しい同病の速や

みどりGX

かな防除につながる技術です。

カタログは同省がホームページで公開し、技術の概要や効果、導入時の留意点、問い合わせ先などを掲載しています。

(日本農業新聞 2025年4月9日)

## 農業技術ピックアップ

### 大豆品種「サチユタカA1号」を奨励品種に採用

県内の大豆作は晩生品種「フクユタカ」が95%以上を占めます。播種適期は7月上中旬ですが、近年の気象条件では梅雨の長雨に遭うことが多く、適期播種が困難な状況です。

過去10年(2013～22年)の単収は80.1kg/10a。都府県平均(134.2kg/10a)と比較して低い水準です。県産大豆の生産拡大、安定供給を図るため、麦類収穫後の6月中下旬に播種しても、倒伏の発生が少なく収量性に優れた大豆品種「サチユタカA1号」を2024年2月、奨励品種に採用しました。

6月中下旬播種条件で「フクユタカ」と比較した特徴は以下の通りです。

- ①開花期は7日、成熟期は11日早い
- ②主茎長は短く、最下着莢節位高はやや低く、倒伏程度は低い(図1)
- ③百粒重は大きく、収量はやや多い(図2)
- ④裂莢率は成熟期から1か月後において低く、ほとんど裂莢しない
- ⑤外観品質は同程度である(図2)
- ⑥子実成分である粗蛋白質、粗脂肪および全糖の含有率はいずれも同程度である

普及予定地域は県内全域です。

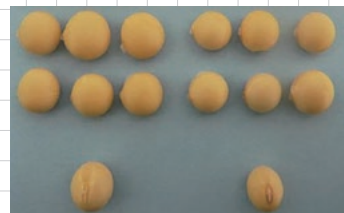


【図1】株標本。サチユタカA1号(左)とフクユタカ(右)

普及面積は大豆作付面積の10%程度、2028年に500ha程度を予定しています。

適期播種した「フクユタカ」と比べ、開花期が半月以上早くなるため、カメムシ類等、害虫に対する適切な防除が必要です。また、害虫被害回避のために、栽培圃場の団地化を推奨します。

最下着莢節位高がやや低いため、収穫時のコンバインの刈取部



【図2】子実の様子(粒大とへその色)。サチユタカA1号(左)とフクユタカ(右)

に入らないように注意が必要です。収穫が遅れた場合は外観品質が低下するため、適期収穫に努める必要があります。

#### お問い合わせ先

生産技術研究室 農産研究課  
☎0598-42-6359  
中央農業改良普及センター  
☎0598-42-6323

▼このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介しています。

農業を営む すべての方に

# 農業経営資金

農業経営に必要な資金として幅広くご利用いただけます

トラクター・ドローンなどの農業機械購入

栽培用ハウス建設

畜舎建設

農地購入

農業運転資金

その他農業経営に必要な資金

JAバンク 利子補給制度で金利負担を軽減します

1年%

当初3年間 最大利子補給

【取扱期間】  
2025年4月1日  
～2026年3月31日

詳しくはお近くのJA/バンクまでお問い合わせください  
<https://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>

JAバンク三重 農業資金 検索

JAバンク 三重県下JA/JA三重信連